

1 はじめに

児童は、相手を意識しながら発表することが少ないように思われる。そこで授業や行事、日常生活において、伝えることを意識付けるようにしている。

2 始業式・終業式での児童の発表

始業式などで児童が作文を読むことはよく見られる光景である。それが本校では、全員が前に並び、教師に向かって発表する形をとっていた。そこで、円陣の隊形とし、児童がお互いの顔を見ながら発表できるようにした。

順番を決めたり教師が指名したりしないで、無指名発表の形式で行っているが、児童はアイコンタクトを取りながら自分たちで進行できるようになっている。



写真1 夏休みの反省発表

3 ホワイトボードを活用した、「教室版ツイッター」

児童は、普段の生活では少人数での会話で済むため、相手の気持ちを汲み取りながら会話をする経験があまりない。

また、初対面の人などに対して接することも少なく、時として失礼な会話をする姿も見受けられる。

そこで、5・6年教室にホワイトボードを設置し、以下のルールで自由につぶやきを書き込めるようにした。

ルール 一日一回はつぶやくこと。

ルール 人を傷付けることは書かないこと。

ルール 友達をつぶやきに対して、何らかの返事をする事。

ルール 初めをつぶやきは、なるべくみんなが返事を書きやすいものにする事。

ルール 楽しいつぶやきや返事には、教師が「花マル」を付けること。

ルール 各々、自分のキャラクターになりきる事。

児童たちは、行事や学習のことなど、楽しみながらいろいろな分野から話題を見付けながら、書き込みをするようになっている。

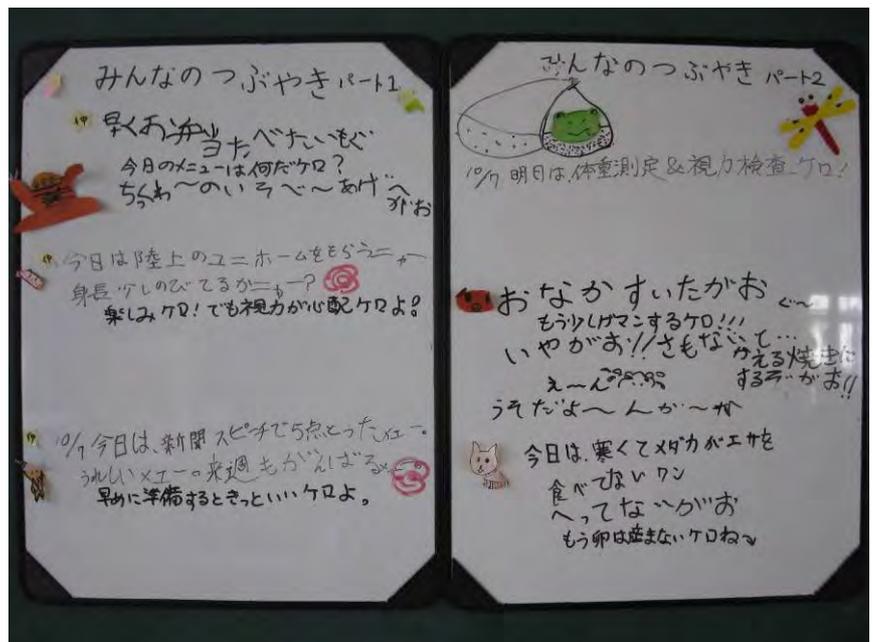


写真2 ホワイトボードの使用例（担任はカエルとして参加）